

J悪性リンパ腫2

対象疾患		悪性リンパ腫	レジメン名	Rtx単剤療法		
1コースの期間(休薬期間含む)			7日			
総コース数		8コース				
Rp.	薬剤名		1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)		1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
2	アセトアミノフェン200 mg		3 T	経口		day 1
3	ジフェンヒドラミン10 mg		3 T	経口		day 1
4	リツキシマブ(Rtx)		375 mg/m ²	点滴静注	※備考欄参照	day 1
	生食		※備考欄参照			
5	生食50 mL(フラッシュ用)		1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類		Rtx: 非炎症性				
催吐性リスク分類		Rtx: 最小度				
インラインフィルターの の要不要		不要				
備考欄		※アセトアミノフェン及びジフェンヒドラミンはRtx投与30分前に投与すること。 ※Rtxの補液の生食は、Rtxの濃度が1~4 mg/mLとなるように調製することとされるが、当院では投与速度管理が煩雑とならないように10倍希釈(1 mg/mL)することとする。 ※Rtxの投与速度は、初回投与時は最初30分は50 mg/hrで点滴静注を開始し、患者の状態を十分観察しながら、その後30分毎に速度を50mg/hrずつ上げ、最大400 mg/hrまで上げることができる。 2回目以降の開始速度は、初回時の副作用が軽微であった場合、100 mg/hrまで上げて開始し、その後30分毎に100 mg/hrずつ上げて、最大400 mg/hrまで上げることができる。 また、B細胞性非ホジキンリンパ腫では、臨床的に重篤な心疾患がなく、初回投与時に発現した副作用が軽微であり、かつ投与前の末梢血リンパ球数が5,000 / μ L未満である場合、90分間で投与(最初の30分で投与量の20%を投与し、その後60分で投与量の80%を投与)することができる。 なお、患者の状態により開始速度は適宜減速すること。				